ぱちんこ
言葉物語 ㉜

「ビタ」

今回の言葉物語は主にパチスロにて使われることの多い「ビタ」という言葉に焦点を当ててみたいと思います。

まさにビタッと止める

この「ビタ」という言葉、表題のとおり「ビタッ」と止まる、または止めるというところから由来する言葉です。狙った場所に寸分違わずリールを止める場合は「ビタ押し」、リール制御の関係からリールが「ただちに停止」した場合を「ビタ止まり」と呼びます。リールの回転速度は1分間に80回転以内と定められていますので、ビタ押しをする精度は0・036秒ほどしか無く、相当な精度が必要な技術です。

ちなみにビタという言葉ではよく「ビタ一文まけらんねぇ！」というような言葉を時代劇などで耳にすると思いますが、このビタとは「鐚」と書きます。漢字そのままの意味で、粗悪なお金という意味でビタ銭という言い方をし、価値も低く、持っていてもあまり使えません。そんなお金すらも値引きできない時にこのような言い方をするのです。従ってパチスロでいう用法とは少し違うようです。

禁断の攻略法も出現

ビタ押しやビタ止まりなどが出来る、見える状況になるとどういう世界が広がっていたのでしょうか。代表的なものを見てみましょう。2号機時代は百花繚乱ですが、有名なものでは1988年登場、高砂電器の「ウインクル」あたりでしょうか。中段以外でのボーナス図柄のビタ止まりはリーチ目（ボーナス確定）となりました。

3号機時代では同じく高砂電器のドリームセブンJrという機種でリール配列の盲点と2リールをビタ押しするという超高難度の技で、1回のボーナスで通常360枚のところを1000枚以上出してしまう禁断の攻略法が発覚しました。

また瑞穂製作所のコンチネンタルIではボーナス成立後の等倍返し（ボーナスがなかなか揃えられない人向けにボーナス成立後に小役確率を上げてお

攻略法もなんのその。
リールの大スベリは今もファン健在
高砂電器産業「ドリームセブンJr」

く）制御とビタ押し技術を駆使してコインを増やす「チェリー抜き」などが出てきました。この攻略的ビタ押し技術をいち早く得ていた人達は、この攻略法が発覚するまで全国を飛び回っていたと聞いています。

そして4号機は目押し技術至上時代となり、ウルトラマン倶楽部などのCT機やクランキーコンドルに始まるビタ押し技術はゲーム性の幅というより「ビタ押しが出来ないと負ける」という格差を生むようになります。

たとえば「大花火」のようにビタ押しが出来ない人向けのサポートがあるものから、完全ビタ押しを要求された「B-MAX」まで様々にありましたが、当時はユーザーの技術力と店舗の営業に差が広くあったため、上級者が枚数を多く獲得しても許容できる幅がありました。

シグナル見落とさず

そして5号機。リール制御は禁則処理の嵐となり、ビタ押し技術は発揮する場所もさらに少なく、レア小役の引きが運命を分けるという、よりカジノ的スロットのような意味合いが濃くなりつつあります。しかし、現在稼働中の機種もビタ押しで設定判別（出玉率の良い台の判別）が出来たり、オリジナルの特典画像が見られたりとメーカーも努力を重ねていますが、ユーザーは溢れんばかりの演出に目を奪われ、リールからのシグナルを見落としているケースも多くあります。例えば、完全告知機で有名な「ジャグラー」でもビタ押しが出来れば、右や左から押しても、誰よりも早くボーナスを察知できる優秀なリーチ目搭載機となるのです。今あるものだけ全てと捉えず、対峙している台からの信号をしっかりと受け止める打ち手のアンテナの感度とそれに応える技術こそ、今のパチスロをもっと楽しむ重要な要素かも知れません。

（大和田敏男）

初心者お断りの完全上級者向け。
極上リール制御の機能美が光る
アルゼ「B-MAX」

出来てこそ広がる世界